

評価基準

(事後評価)

評価項目を個別に評価した上で、総合評価を行った。

評価項目	評価区分
1. 研究プロジェクト（領域） の設定および運営に対して	a+ ：特に優れて的確かつ効果的であった。 a ：的確かつ効果的であった。 b ：やや不的確・非効果的な部分が認められる。 c ：著しく不的確であり、効果的でなかった。
2-1. 研究活動の状況 (※1)	a+ ：特筆して望ましい研究展開を示した a ：良好な研究展開を示した b ：やや望ましくない部分がある c ：著しく望ましくない研究展開であった
2-2. 研究成果 (科学技術的側面)	a+ ：成果として秀逸である。 a ：成果として良好である。 b ：成果として多少不足である。 c ：成果として極めて不足である。
2-3. 研究成果 (産業・社会的側面)	a+ ：成果として秀逸である。 a ：成果として良好である。 b ：成果として多少不足である。 c ：成果として極めて不足である。
総合評価	A+ ：戦略目標の達成に資する十分な成果が得られた A ：戦略目標の達成に資する成果が得られた B ：戦略目標の達成に資する成果はやや不足である C ：戦略目標の達成に資する成果は著しく不足である

※1 「相手国機関との研究交流実施状況」を含む。

(中間評価)

評価項目を個別に評価した上で、総合評価を行った。

評価項目	評価区分
1. 研究プロジェクト（領域） の設定および運営に対して	a+ : 特に優れて的確かつ効果的である a : 的確かつ効果的である b : やや不的確・非効果的な部分がある（若干の工夫を要する） c : 著しく不的確であり、効果的でない（著しい改善を要する）
2-1. 研究活動の状況と今後の見込 (※2)	a+ : 特筆して望ましい研究展開を示しており、今後にもさらに期待できる a : 良好な研究展開を示しており、今後にも期待できる b : やや望ましくない部分がある（若干の工夫を要する） c : 著しく望ましくない研究展開である（著しい改善を要する）
2-2. 研究成果の現状と今後の見込	a+ : 成果として秀逸である。 a : 成果として良好である。 b : 成果として多少不足である。 c : 成果として極めて不足である。
総合評価	A+ : 卓越した研究水準にある A : 優秀な研究水準にある B : やや不足する部分がある（今後若干の工夫を要する） C : 上記の段階には達していない（今後著しい改善を要する）

※2 「相手国機関との研究交流実施状況」を含む。